

学生発表

●平成31年度 (令和元年/2019.4~2020.3) ●

●第122回日本小児科学会学術集会での発表

第122回日本小児科学会学術集会で6名の大學生に発表を行ってもらいました。
皆様準備の段階から非常に熱心でその甲斐もあり発表もその後の質疑応答も堂々とされていました!!
最後に各学生の方からの感想も提示いたします。



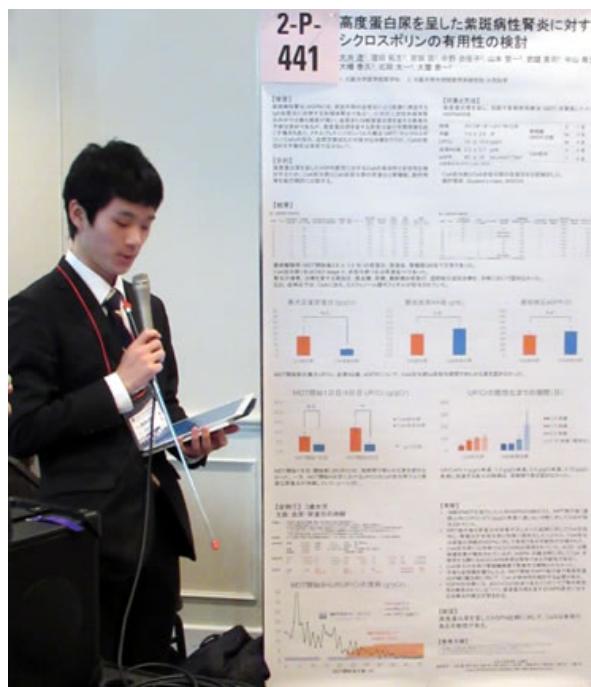
小松弘季さん(6回生)
「溶血発作・急性肝不全を呈し急腎が疑われたWilson病の一例」



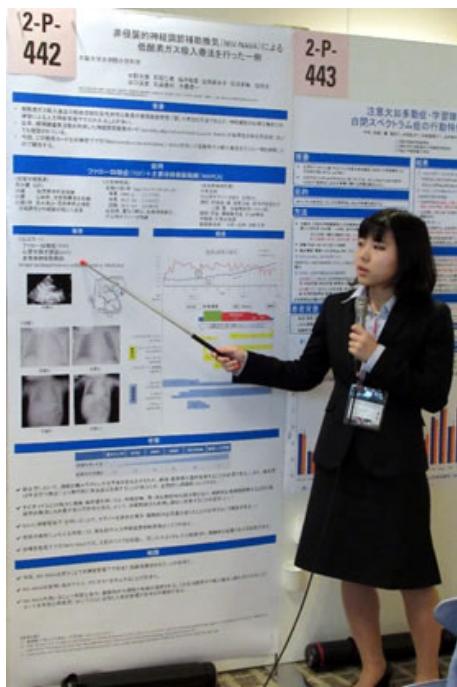
牧野修三さん(6回生)
「運動後発症した横紋筋融解症による心停止を契機に拡張型心筋症の診断に至った一例」



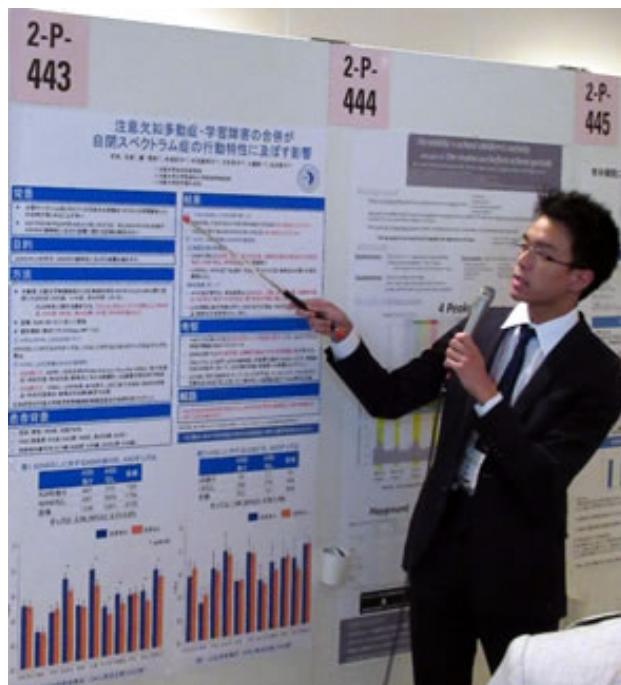
辻井敦子さん(6回生)
「小児ALLにおけるWT1-mRNA発現量の臨床的意義」



大井遼さん(5回生)
「高度蛋白尿を呈した紫斑病性腎炎に対するシクロスボリンの有用性の検討」



中野光世さん(6回生)
「非侵襲的神経調節補助換気(NIV-NAVA)による低酸素ガス吸入療法を行った一例」



竹内太郎さん(5回生)
「注意欠陥多動症・学習障害の合併が自閉スペクトラム症の行動特性に及ぼす影響」

皆様お疲れさまでした！！

★懇親会の様子★



★学生の方々の感想★

「今後医師となり、学会発表する機会はさらに増えていくと考えられるが、今回の経験を生かしてさらに発表のスキルを磨いていきたいと考えている」(竹内太郎さん)

「今回の経験を通じて患者さんのデータの積み重ねの中にいろいろな情報がることに気づき、臨床研究や研究の面白さを感じました」(辻井敦子さん)

「熱心にご指導いただく中で小児科の魅力を存分に体感することができ、将来を考えるうえで非常に参考になりました」(小松弘季さん)

「独りよがりの情報量満載のプレゼンより、周囲の理解、共感を得られるプレゼンが優れているのだと気づくことができました」(牧野修三さん)

「学会発表はほぼ初めての経験でしたが、先生方のご指導でポスター発表をさせていただくことができました。 (中略) 私にとっては大変貴重な機会でした」 (大井遼さん)

「ポスターで正確に相手に伝わるように適切な医療用語を用いて文章を作っていくことが新鮮でした。そして、自分が今まで結構不適切な言葉を使ってレポートを書いてきたことも知り、これから気を付けていこうと思いました」 (中野光世さん)

(順不同)